

平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	45人	算数	45人	理科	45人	質問紙	46人
第5学年	国語	65人	算数	65人	理科	65人	質問紙	65人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

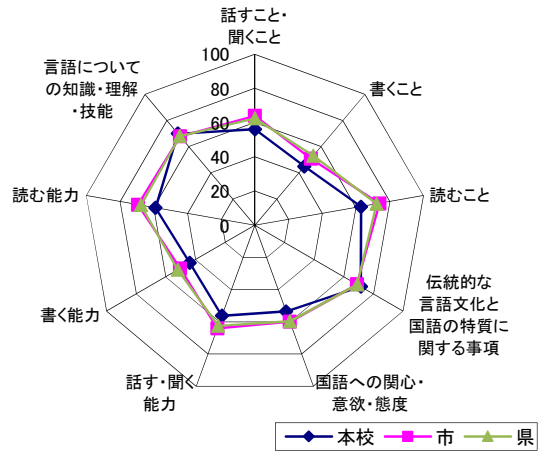
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	56.2	64.0	62.5
	書くこと	45.0	50.9	53.1
	読むこと	63.0	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.5	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	53.5	59.9	59.7
	話す・聞く能力	56.2	64.0	62.5
	書く能力	43.9	50.4	52.0
	読む能力	58.9	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	70.0	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

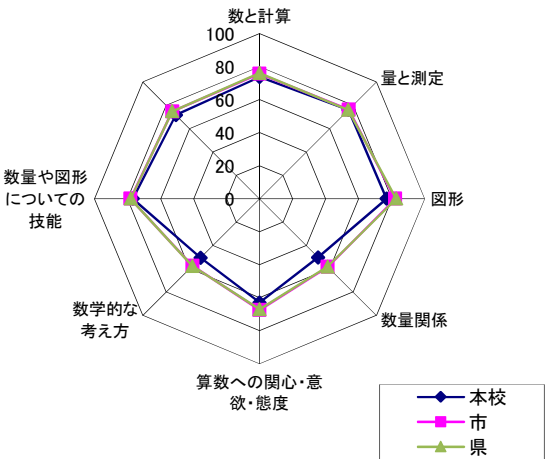
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●平均正答率は56.2%で、県の平均と比べ、6.3ポイント下回っている。 ●「話題に沿った意見と理由を考えて話す」問題では、正答率が56.7%で、県平均を13.2ポイント下回っている。 ●「話し方の工夫に注意して聞き取る」問題では、正答率が57.8%で、県の平均を10.2ポイント下回っている。	・授業の中で、発言の仕方・話し方について具体的やポイントを示しながら、話すことに慣れさせていく。 ・普段の生活の中から、時と場に応じた話す・聞くのスキルを身に付けるようにする。
書くこと	●平均正答率は45.0%で、県の平均と比べ、8.1ポイント下回っている。 ●「指定された長さで文章を書く」問題では、正答率が33.3%で、県平均を10.8ポイント下回っている。 ●「2段落構成で文章を書く」問題では、正答率が33.3%で、県平均を13.6ポイント下回っている。	・お礼の手紙や感想を書く活動を通して、読み手を意識した分かりやすい文章が書けるよう、教師からこまめにアドバイスをしたり児童同士で読み合う時間を確保したりして、書く力を伸ばすようにする。 ・普段の作文指導やノート指導の中で、マス目の用紙を使用して、段落、構成、文字数等を意識して書かせるようにする。
読むこと	●平均正答率は63.0%で、県の平均と比べ、9.2ポイント下回っている。 ●「文章の内容を的確に読み取る」問題では、正答率が60.0%で、県平均を14.5ポイント下回っている。 ●「目的や必要に応じて場面の様子と登場人物の気持ちを読み取る」問題では、正答率が62.2%で、県平均を13.3ポイント下回っている。	・説明文の読み取りをするときに、段落ごとの大切な言葉を確認し、段落相互の関係を捉えることを意識した指導を心掛けていく。 ・物語文を読むとき、登場人物の気持ちを考えるだけでなく、叙述に従って、どんな性格か、物語の中でどのような役割なのかを考えられるよう、指導を工夫する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は71.5%で、県の平均と比べ、2.4ポイント上回っている。 ○「漢字を書く」問題では、正答率が75.6%で、県平均を12.1ポイント上回っている。 ●「国語辞典の使い方を理解する」問題では、正答率が66.7%で、県平均を8.7ポイント下回っている。	・漢字練習に繰り返し取り組ませるとともに、前学年の漢字も折に触れて練習できるよう、家庭学習や朝の学習の工夫をする。 ・普段の授業や自主学習の中で、国語辞典を活用した学習を多く取り入れ、使い方を指導するとともに、自分で調べて分かる楽しさを経験させていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.7	75.8	76.1
	量と測定	76.2	76.5	76.0
	図形	77.0	82.1	82.7
	数量関係	50.2	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	62.9	67.4	67.0
	数学的な考え方	50.6	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	76.8	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	71.8	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

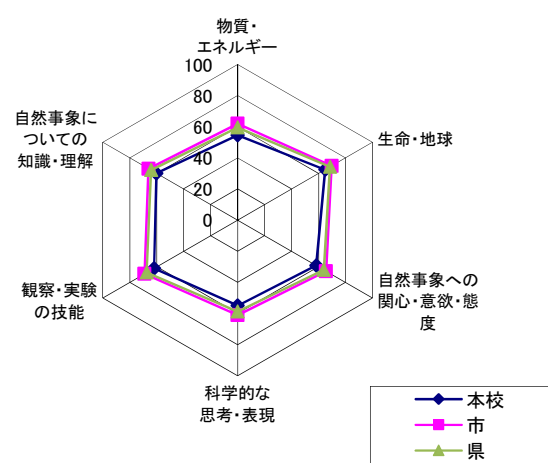
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は73.7%で、県の平均と比べ、2.4ポイント下回っている。 ●「数の相対的な大きさを理解する」問題では、正答率が42.2%で、県平均を10.0ポイント下回っている。 ●「分数の数直線上での表し方を理解する」問題では、正答率が51.1%で、県平均を18.4ポイント下回っている。	・繰り返し具体物を使って説明したり、数直線を自分でかかせたりする等、数の大小や順序についてしっかりと身に付けさせる。
量と測定	○平均正答率は76.2%で、県の平均とほぼ同じである。 ○「地図から読み取った2つの道のりについて、長さの大小を表し方を理解する」問題では、正答率が75.6%で、県平均を6.4ポイント上回っている。 ●「身近にあるものの重さの単位について理解する」問題では、正答率が66.7%で、県平均を9.6ポイント下回っている。	・重さに応じた単位を的確に判断できるよう、重さを推測したり実際に計測したりする活動を多く取り入れる。 ・日常生活と関連付けて、重さの問題に繰り返し取り組ませる。
図形	●平均正答率は77.0%で、県の平均と比べ、5.7ポイント下回っている。 ●「球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める」問題では、正答率が57.8%で、県平均を10.7ポイント下回っている。	・「何倍」「半径」等の算数用語の意味を確実に理解できるように、繰り返し指導する。 ・具体的に操作したり作図したりする活動を取り入れる。
数量関係	●平均正答率は50.2%で、県の平均と比べ、8.0ポイント下回っている。 ●「□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ」問題では、正答率が40.0%で、県平均を7.3ポイント下回っている。 ●「棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明する」問題では、正答率が8.9%で、県平均を12.7ポイント下回っている。また、この問題の無回答率は42.2%で、県平均を15.1ポイント上回っている。	・普段の授業において、問題文の中のポイントとなる数値や単位等に印をつける習慣を身に付けさせる。 ・問題文を読み、数量関係を図にかいて表す練習や、言葉・文章で表す練習を繰り返し行う。 ・無回答率の高かった問題については、授業で取り上げ、もう一度取り組ませる。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.5	61.9	59.4
	生命・地球	64.9	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	58.3	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	54.9	61.0	58.8
	観察・実験の技能	62.0	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	60.2	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●平均正答率は54.5%で、県の平均と比べ、4.9ポイント下回っている。 ○「日光を集めた部分の大きさと明るさや温度との関係について理解する」問題の正答率は84.4%で、県平均を12.6ポイント上回っている。 ●「電気工事をしている人がゴムの手袋や長靴を使用する理由を説明する」問題の正答率は11.1%で、県平均を13.8ポイント下回っている。	・自然事象や既習内容をもとに予想する活動を大切にし、自分の予想を文章や図、絵などで説明できるよう、指導していく。 ・記述式の問題への抵抗を減らすために、普段から文章を書く練習を取り入れる。 ・児童にとって興味深い実験は事象の理解について深まっているといえるため、今後も興味をもつような実験を用意して体験させていく。
生命・地球	●平均正答率は64.9%で、県の平均を3.6ポイント下回っている。 ○「植物の育つ順序を理解する」問題の正答率は53.3%で、県平均を3.9ポイント上回っている。 ●「ハウスエンカの種を正しくまいて世話をする」問題の正答率は6.7%で、県平均を19.8ポイント下回っている。 ●「太陽とかげの動きについて理解する」問題の正答率は20.0%で、県平均を11.6ポイント下回っている。 ●「他の班が方位磁針の操作をどのように誤ったのか指摘する」問題の正答率は33.3%で、県平均を11.2ポイント下回っている。	・日時や天気、成長の様子などの記録を積み重ね、継続して観察活動に取り組めるよう、随時指導していく。 ・自然事象を体験することで、今後の活動に対する興味や関心を高めるとともに、実感を伴った知識を身に付けられるようにする。 ・方位磁針や温度計など観察で使用する器具については、使い方を教えるだけでなく、誰もが実際に手に触れて使う場面を作ることで、知識として定着できるようにする。 ・人と自然とのかかわりについて、自分の考えをノートに記述したり、互いに話し合ったりする時間を確保する。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「次の教科などの学習は好きですか」で、国語・算数・社会・理科・総合的な学習、いずれの教科とも、肯定的な回答をした児童の割合が県の平均を上回っている。今後は「好き」という児童の気持ちを大切にして、日々の授業で意欲的に発言したり多くの問題に取り組んだりする児童を育てていく。

○「次の教科の授業の内容はよく分かりますか」で、理科では肯定的な回答をした児童の割合が100%に達した。授業で学んだ内容を知識として定着できるように、定期的に復習をさせ学力向上を図っていく。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」で、肯定的な回答をした児童の割合は91.3%で、県の平均を11.5ポイント上回っている。今後の学級経営でも発言しやすい雰囲気を築き、児童の発言を促進していく。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」、「家で、学校の授業の予習をしている」、「家で、学校の授業の復習をしている」、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の回答について、肯定的な回答をした児童の割合が、全て県の平均を下回っている。これらの回答から、どんな家庭学習をすればよいか戸惑っている児童や自分で考えて進んで学習することを苦手とする児童が多い傾向がみられる。今後、昨年度から引き続いてリレー自主学習を実施して家庭で学習する上でのヒントにしたり、意欲的に取り組めるようなプリントを活用したりして、家庭学習の活性化を図るとともに自ら考え学習できるように促していく。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」で、肯定的な回答をした児童の割合は28.3%で、県の平均を12.1ポイント下回っている。今後は、パソコン室を活用し、情報教育の充実を図る。一方で図書館の活用を進め、本が児童の身近なものとなるよう支援していく。

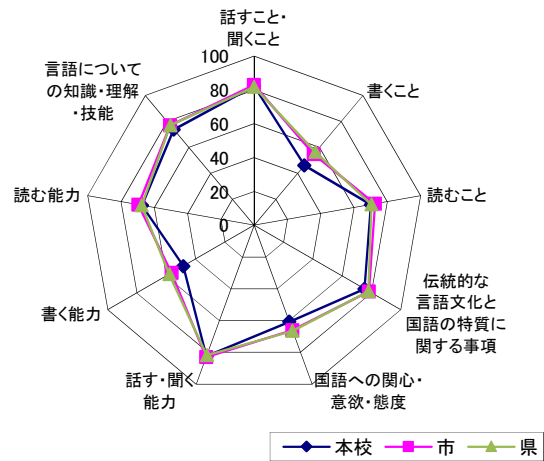
●「ふだん、1日当たり1時間以上テレビゲームをする」と回答した児童の割合は58.7%で、県の平均を5.1ポイント上回っている。長時間テレビゲームを行うことへの弊害や家庭で決めたルールを守ることの大切さを児童に指導するとともに、保護者への啓発を図る。

●「学校の授業時間以外に、ふだん1時間以上勉強する」と回答している児童の割合は26.1%で、県の平均を21.0ポイント下回っている。児童に学習することの大切さを折に触れて話し、自主学習にどのように取り組むのかを具体的に指導していくとともに、保護者への啓発を図る。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.3	82.9	81.8
	書くこと	46.2	54.8	56.5
	読むこと	70.1	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.4	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	60.7	66.0	66.4
	話す・聞く能力	82.3	82.9	81.8
	書く能力	48.3	56.3	57.9
	読む能力	67.4	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	74.0	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

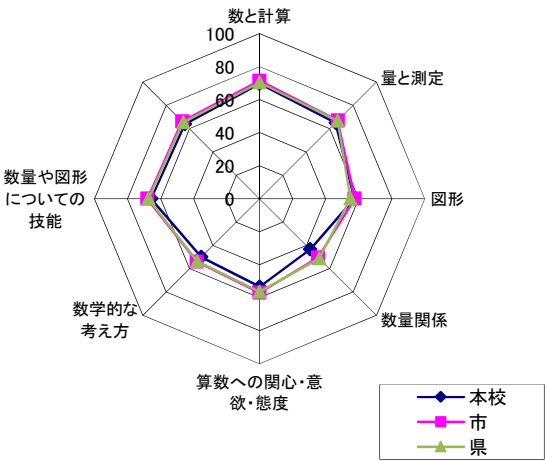
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は82.3%で、県の平均と比べ、0.5ポイント上回っている。 ○「話の中心に気をつけて聞き取る」問題では、正答率が89.2%で、県平均を3.3ポイント上回っている。 ●「話し方の工夫に注意して聞き取る」問題では、正答率が83.1%で、県平均を1.3ポイント下回っている。	・どの教科でも話し合いの場を意識的に設け、ペア学習・グループ学習で、自分の意見を相手に分かるように伝えたり、正しく聞き取ったりする練習を行うことで、意識付けをしていく。
書くこと	●平均正答率は46.2%で、県の平均と比べ、10.3ポイント下回っている。 ○「意見をもとに、ポスターの文を書く」問題では、正答率が64.6%で、県平均を5.8ポイント上回っている。 ●「書こうとすることの中心を明確にして文章を書く」問題では、正答率が40.0%で、県平均を20.2ポイント下回っている。	・普段の作文指導・ノート指導の中で、マス目を用いた用紙を使用し、段落構成や文字数を意識して書かせるようにする。 ・結論を先に伝え、自分の考えを明確にしてから、理由を書くような場を増やしていく。
読むこと	●平均正答率は70.1%で、県の平均とほぼ同じである。 ○物語文の「場面の様子を読み取る」問題では、正答率が84.6%で、県平均を3.2ポイント上回っている。 ○説明文の「文章の内容を的確に読み取る」問題では、正答率が73.8%で、県平均を4.0ポイント上回っている。 ●「段落のまとまりを理解して文章の内容を的確に読み取る」問題では、正答率が35.4%で、県平均を4.9ポイント下回っている。	・物語の主人公の気持ちや、叙述に沿って考えたり想像したりする活動の機会を増やしていく。 ・説明文の読み取りをするとき、段落ごとの大切な言葉を確認し、段落相互の関係を捉えることを意識した指導を心掛ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は75.4%で、県の平均より2.7ポイント下回っている。 ○「文の構成(連用修飾語)を理解する」問題では、正答率が60.0%で、県平均を15.0ポイント上回っている。 ●「漢字辞典の使い方を理解する」問題では、正答率が53.8%で、県平均を16.2ポイント下回っている。	・主語・述語・修飾語など、言葉のきまりについて練習問題に取り組ませる。 ・普段の授業や自主学習の中で、漢字辞典を活用した学習を多く取り入れて、使い方を指導していくとともに、自分で調べて分かる楽しさを体験させていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.7	71.5	70.4
	量と測定	65.1	67.0	66.9
	図形	57.3	57.6	55.0
	数量関係	43.3	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	53.3	57.0	56.3
	数学的な考え方	49.9	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	65.7	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	64.0	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

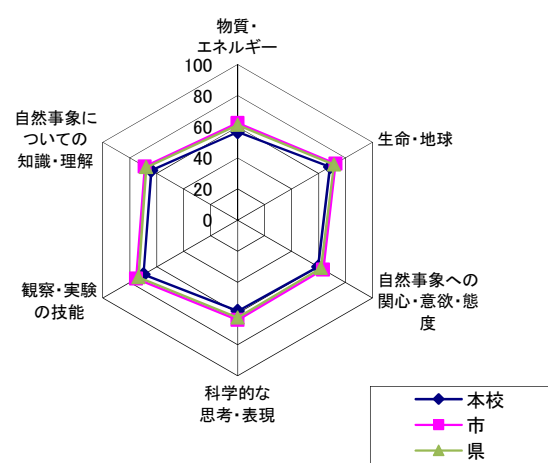
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は69.7%で、県の平均と比べ、0.7ポイント下回っている。 ○「小数第一位－小数第二位の計算をする」問題の正答率は76.9%で、県の平均正答率を9.4ポイント上回っている。 ●「小数第一位＋整数の計算をする」問題の正答率は56.9%で、県の平均正答率を11.1ポイント下回っている。 ●「数の相対的な大きさについて理解する」問題の正答率は46.2%で、県の平均正答率を12.2ポイント下回っている。	・小数、分数、大きな数などの四則計算や、式と図の関係についての問題に繰り返し取り組ませる。 ・家庭とも連携し、繰り返し練習させることで、基礎・基本の定着を図る。
量と測定	●平均正答率は65.1%で、県の平均と比べ、1.8ポイント下回っている。 ○「180度より大きい角の大きさを求める式を選ぶ」問題の正答率は80.0%で、県の平均正答率を6.0ポイント上回っている。 ●「身近にある物のおよその面積を理解する」問題の正答率は32.3%で、県の平均正答率を6.1ポイント下回っている。	・実際に定規や分度器を用いて測定する活動を多く取り入れ、児童が実感し、より理解が深まるように指導する。 ・身近なものの面積については実感をもって理解ができるように、ICT機器や実物を活用し、定着を図る。
図形	○平均正答率は57.3%で、県の平均と比べ、2.3ポイント上回っている。 ○「四角形の対角線の性質を理解する」問題の正答率は69.2%で、県の平均正答率を9.4ポイント上回っている。	・図形についての関心を高め、作図に慣れ親しむことができるように引き続き指導する。 ・三角定規・分度器・コンパス等の作図用具を正しく丁寧に扱うように、家庭にも呼び掛け、連携して指導する。
数量関係	●平均正答率は43.3%で、県の平均と比べ、7.8ポイント下回っている。 ●「四則の混じった式の計算順序を理解する」問題の正答率は53.8%で、県の平均正答率を8.0ポイント下回っている。 ●数量関係では、無回答率が30%以上と高い問題が多く見られる。	・四則混合計算については既習内容をもう一度復習し、繰り返し練習させることで、基礎・基本の定着を図るようにする。 ・単元の終末には、理解度に応じてヒントを与えるなど指導の仕方を工夫し、どの児童も自分から取り組んでみようとする気持ちが高まるようにする。 ・無回答率が高かった問題については、時間的な要素に加え、問題文が長く複雑になると最後まで粘り強く考えることが難しくなる傾向があるため、授業でも取り上げて慣れさせる。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.5	62.4	61.1
	生命・地球	68.5	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	59.7	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	58.4	64.1	62.6
	観察・実験の技能	69.8	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	64.0	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●平均正答率は56.5%で、県の平均と比べ、4.6ポイント下回っている。 ○「水を熱したときの温度変化のグラフを理解する」問題の正答率は83.1%で、県の平均を5.4ポイント上回っている。 ●「空気でっぽうで空気をおし縮めたときの手ごたえと、空気のもとにもどろうとする力によって玉が飛ぶことを理解する」問題の正答率は61.5%で県の平均と比べ、12.0ポイント下回っている。また、「空気と水を閉じ込めた注射器のピストンを押すと、どのようになるか推測する」問題の正答率は73.8%で、県の平均より9.0ポイント下回っている。物の体積と力に関する内容の理解が低い。 ●「グラフから水の状態を読み取る」問題の正答率は44.6%で、県の平均より10.0ポイント下回っている。 ●「水の温まり方をもとに、投げ込みヒーターの先が長い理由を推測する」問題の正答率は18.5%で、県の平均より10.4ポイント下回っている。 ●「水をあたためると体積が大きくなることを理解する」問題の正答率は58.5%で、県の平均より14.7ポイント下回っている。	・現象や事柄をできるだけ日常生活と関連付けて考えられるように工夫し、知識・理解が確実に身に付くようにする。 ・目的をもって実験に取り組むことができるようにするため、実験の意味や内容を理解し、自分なりの予想を立ててから実験に臨めるようにする。 ・実験の結果をまとめるときには、キーワードやモデル図などを提示し、科学的に考え自分の言葉で表現できるように支援する。
生命・地球	●平均正答率は68.5%で、県の平均と比べ、2.9ポイント下回っている。 ○「ヘチマの実の中に種ができることを理解する」問題の正答率は96.9%で、県の平均と比べ、6.0ポイント上回っている。 ●「オオカマキリの1年間の様子について理解する」問題の正答率は64.6%で、県の平均と比べ、6.9ポイント下回っている。 ●「気温と生物の活動のようすの変化について理解する」問題の正答率は80.0%で、県の平均と比べ、7.5ポイント下回っている。 ●「蒸発について理解する」問題の正答率は61.5%で、県の平均と比べ、6.6ポイント下回っている。 ●「月の形の名称を理解する」問題の正答率は75.4%で、県の平均と比べ、9.3ポイント下回っている。	・自然事象を体験する機会を多く設け、実感を伴った知識を身に付けられるようにする。 ・月や星の動き等、学校での観察が困難な内容については、映像を見せたり疑似体験ができるようにしたりして、学習を進めていく。また、家庭で観察できるように、協力を呼び掛ける。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校のきまりを守っている」で、肯定的な回答をした児童の割合は100.0%で、落ち着いて学校生活を送っていることが分かる。今後も落ち着いた生活ができるように指導を続けていく。

○「将来のゆめや目標をもっている」で、肯定的な回答をした児童の割合は98.5%で、県の平均を9.5ポイント上回っている。今後も夢や目標をもち、それに向かって努力することの大切さを児童に伝えていきたい。

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」で、肯定的な回答をした児童の割合は93.9%で、県の平均を10.5ポイント上回っている。また、「人と話すことは楽しい」で、肯定的な回答をした児童の割合は98.4%で、県の平均を5.0ポイント上回っている。これらのことから、人との会話や関わりを楽しみ、安定した生活ができていると考えられる。今後も児童同士の人間関係に気を配り、一人一人が生き生きと楽しい学校生活を送れるようにしていきたい。

●「学校の授業以外に、ふだん1時間以上勉強をする」と回答している児童は24.6%で、県の平均を35.0ポイント下回っている。保護者への啓発を図るとともに、学習することの大切さを折に触れて話し、自主学習にはどのように取り組むのかを具体的に指導していきたい。

●「授業の最後に、学習をしたことを振り返る活動をよく行っている」で、肯定的な回答をしている児童の割合は61.5%で、県平均を18.0ポイント下回っている。学習習慣の一つの手立てとして、授業で振り返りの時間を確保していく。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」で、肯定的な回答をしている児童の割合は72.3%で、県の平均を10.7ポイント下回っている。「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」で、肯定的な回答をしている児童の割合は56.9%で、県の平均を13.2ポイント下回っている。また、「ほとんどまたは全く新聞を読まない」と回答した児童は86.2%おり、世の中の出来事に対しての関心が薄い。教師が世の中の出来事を積極的に話すことによって児童の興味を引き上げたり、ツールの利便性や使用方法を教えたりすることで、世の中の出来事に関心をもたせるようにしていきたい。

宇都宮市立西が岡小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
国語科を中心とし、自分の言葉で文章にまとめる指導の充実	・作文指導やノート指導の中で、マス目の用紙を使用して、指定された文字数や段落構成で書く経験をさせる。 ・各教科の授業の中で、自分の考えを文章で表す活動を意図的に多く取り入れる。	・国語の「書くこと」の「指定された長さで文章を書く」問題の正答率は、県の平均と比べ、4年生で10.8ポイント、5年生で14.2ポイント下回っている。また、「2段落構成で文章を書く」問題の正答率は、県の平均と比べ、4年生で13.6ポイント、5年生で14.5ポイント下回っている。 ・国語・算数・理科のどの教科でも、記述式問題の正答率が低く、無回答率が高い。
算数：基礎的事項を確実に理解させる指導の充実	・実際の生活の場面と関連させながら、問題に取り組ませる。 ・朝の学習の時間に、個に応じて補充的な学習を取り入れた指導や繰り返し指導を行い、基礎的な学力の定着を図る。	・4年生の「身近にあるものの重さの単位について理解する」問題の正答率は、県の平均と比べ、9.6ポイント下回っている。また、5年生の「身近にあるおよその面積を理解する」問題の正答率は、県の平均と比べ、6.1ポイント下回っている。 ・前年度までに学習した内容を忘れてしまっている児童が多く見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」で、肯定的な回答をした児童の割合は、県の平均と比べ、4年生で4.3ポイント、5年生で19.6ポイント下回っている。	・学習に進んで取り組む児童の育成と学習意欲を高める指導の工夫	・実際に計測したり調べたりする体験的な活動を重視した授業を展開することで、どの児童も意欲をもって学習に取り組めるようにする。 ・朝の学習の時間を活用し、落ち着いて学習に取り組めるよう全学級で指導を徹底するとともに、個に応じた課題を出すことで、進んで取り組めるようにする。
・「学校の授業時間以外に、平日には1時間以上勉強をする」と回答した児童は、県の平均と比べ、4年生で21.0ポイント、5年生で35.0ポイント下回っている。 ・「家で学校の授業の復習をしている」と回答した児童は、県の平均と比べ、4年生で11.3ポイント、5年生で25.2ポイント下回っている。	・自主的に家庭学習に取り組む児童を育成するための保護者との連携強化	・昨年度上学年で取り組んだ「リレー自主学習ノート」を全学年に広げ、自主学習の活性化を図るとともに、友達の学習内容を参考にできるようにする。